

「危機管理」

使用者委員 濱上剛一郎

令和6年1月2日午後5時過ぎ、私と妻は羽田空港で、駐機場を離れ滑走路手前で離陸許可を待つ鹿児島行き飛行機の中にいた。年末年始を東京に住む娘たちと一緒に過ごし、4日の仕事始めに余裕を持たせて帰る予定だった。定刻より40分位遅れてはいたが、あとは飛び立つのを待つだけだった。すると「別の滑走路で火災が発生しました。ただ、この便が使用する滑走路とは別ですので離陸に支障はありません。今しばらくお待ちください。」と機長アナウンス。この時点ではあまり緊迫感はなく、遅れても飛びさえすればいいと思い待っていたが、飛行機はその後一向に動く気配はない。1時間たった頃「まだ、情報はありません。」2時間たっても「まだ情報はありません。」じりじりして待つこと約3時間。突然、「羽田空港は閉鎖となりこの便も欠航となりました。今から駐機場に戻りますが、順番待ちと安全確認のため、今しばらくそのままお待ちください。」さすがに機内は「え〜っ。」4時間位たった午後9時過ぎようやくバス移動で到着ロビーに戻り、預けていた荷物を受け取りに行ったが、その他の飛行機も欠航になったため大混乱の状況だった。いつもは手荷物だけなのにこの日に限ってスーツケースを預けており余計時間がかかってしまい運の悪さを恨めしく思った。それでも何とか、荷物を受け取って、京急線の乗り場にダッシュした。翌日の飛行機の席が取れるかわからないし、羽田空港がどういう状況になっているかもわからない。飛行機はあきらめて新幹線を乗り継いで帰るしかない、待機中の機内で新幹線のチケットを取ろうとスマホで何度もアクセスしていたのだが結局うまくいかなかった。そこで京急線に乗り、JR品川駅に行き、みどりの窓口に駆け込んだのだ。並びの席は取れなかったが、何とか2人分、東京～博多、博多～鹿児島中央の指定席が取れた。陸路ながらも何とか帰れる目途がつき、この時は心底ホッとした。電車を乗り継ぎ、そのまま娘の所に行き、コンビニで買った夕食のカップラーメンを作る頃は午後11時半ごろだったが、ニュースを見てびっくり。飛行機の衝突事故で海上保安庁の乗組員5人が死亡している。旅客機の乗客は全員緊急脱出したあと、機体は完全に燃え尽きている。スマホで情報は得ていたが、これほどの大惨事だったとは思ってもいなかった。

実は、前日、元日の能登の地震の時は東京も結構揺れて、その時高層ビルの21階にいた私たちは、しばらくエレベーターが使えず、非常階段を歩いて1階まで降りるといふ災難にあっていた。そして次の日は飛行機の欠航と、正月早々、何と運が悪いんだと当初はブーたれていた自分が恥ずかしくなった。地震で亡くなられた方、被災された方、そして飛行機事故で亡くなられた方や大切な荷物も持てずに体一つで飛行機から脱出された方々に比べれば、自分たちは何と恵まれていることかと。あの日以来、私は、出張など非日常の時はもちろん、日常においても、「もし今、想定外のことが起きたらどう対処しようか」ということを考えるようになった。ゲーム感覚程度のささやかなリスク管理ではあるが、杞憂に終わればそれが一番いい。想定外の出来事や災害でまさに不穏な幕開けとなったが、あと10か月、何とか落ち着いた2024年であってほしい。